

## 76 窓の言葉

各地での感染状況がやや減少傾向に転じてきましたが、それでもまだ昨年夏の第2波の時と同じぐらいの様子です。

さて、2月も終わりを迎え、いよいよ年度末の3月がやってきます。子どもた



ちはコロナ禍ではありますが、手洗いや換気、マスク着用などに気を付けながら、学習のまとめということで、テストであったり発表であったりと、これまでの力を発揮しようとがんばっています。

そんながんばり屋の釜利谷小の子どもたちですが、年度末のあわただしい学校生活やコロナ禍の影響もあるのでしょうか、このところ言動が気になります。ちょっとした言葉の使い方であったり、本人にしてみれば些細な事と思えるような行動であったり、その中に「相手を思いやる気持ち」が見えない時があるのです。そのことが原因(すべてではありませんが)で、トラブルがおきていきます。

互いの話を聞き、確認をしながら指導を重ねるようにしていますが、「いじめ」として認知すべきケースも考えられます。道徳科でも、学級活動でも、他の活動の中でももちろん、思いやりや優しさの指導は繰り返し行っています。また保護者の方への連絡もさせていただき、ご理解とご協力をお願いすることもございます。

学校だけでは不十分な点がございまして、かねてから申し上げておりますように、学校・家庭・地域で子どもたちの成長を育み、見守り、促していくことが大切と考えています。